令和７年度
第１回東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部ネットワーク会議

次　　第

１　開会

２　あいさつ

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長
福島県文化スポーツ局長

３　報告

（１）令和６年度事業報告について

（２）活動調査アンケートの結果について

（３）令和７年度伝承者育成講座について

（４）令和７年度伝承者育成中国語講座について

（５）令和７年度語り部県外派遣の申込状況について

４　協議

（１）令和７年度ふくしま震災伝承者交流会実施計画（案）について

（２）令和７年度３．１１被災地視察研修実施計画（案）について

（３）令和７年度伝承者育成英語講座の受講者（案）について

（４）令和７年度語り部県内派遣事業（案）について

（５）その他

５　事務連絡

６　閉会

場所　東日本大震災・原子力災害伝承館　研修室

日時　令和７年５月15日（木）14：00～15：20

参加者名簿

【会　員】　　（五十音順）

NO.	所　　属	氏　　名	出欠
1	會空	庄　子　ヤウ子	出
2	いわき語り部の会	大　谷　慶　一	出
3	いわき市観光物産センター（いわき・ら・ら・ミュウ）	本　田　和　弘	欠
4	Ｆ．tellers（エフ・テラーズ）	前　川　直　哉	出
5	遠藤　絹子（えんどう　きぬこ）		出
6	おおくま町物語伝承の会	橘　　秀　人	出
7	（一社）大熊未来塾	木　村　紀　夫	出
8	大堀相馬焼協同組合	半　谷　貞　辰	欠
9	原発震災を語り継ぐ会	髙　村　美　春	出
10	國分　信一（こくぶん　しんいち）		出
11	子どもに音楽を贈る会　しあわせを運べるように合唱団	佐　藤　敬　子	欠
12	（株）Ｊ―ヴィレッジ	猪　狩　安　博	欠
13	相馬市観光協会	齊　川　一　朗	出
14	（NPO法人）富岡町3･11を語る会	青　木　淑　子	出
15	永岡　富紀子（ながおか　ふきこ）		出
16	浪江まち物語つたえ隊	八　島　妃　彩	出
17	（一社）ならはみらい	渡　邉　　清	欠
18	（合同会社）ニコニコ菅野農園	菅　野　ク　ニ	出
19	平野　勝長（ひらの　かつなが）		出
20	防災語り部の会	鶴　見　美佐子	出
21	東日本大震災・原子力災害伝承館	齊　藤　裕　二	出
22	HITOkumalab	佐　藤　亜　紀	欠
23	ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）	大　石　幹　人	出
24	（一社）ふくしまリアリ	山　口　祐　次	出
25	藤沼湖自然公園復興プロジェクト委員会	深　谷　武　雄	欠
26	（一社）双葉未来会議	平　山　　勉	欠
27	星降る古里ひろの	鈴　木　恵　子	出
28	三舩　暁（みふね　さとる）		出
29	南相馬市観光ボランティアガイド	岩　橋　光　善	出
30	山百合の会	松　田　早百合	出

【会議参加】

NO.	所　　属	氏　　名
1	福島大学教育推進機構 高等教育企画室准教授	前　川　直　哉

【オブザーバー】

NO.	所　　属	氏　　名
1	富岡町教育委員会生涯学習課　副主幹兼業務係長	遠　藤　　淳
2	川俣町教育委員会生涯学習課　社会教育指導員	遠　藤　貴美子
3	防災語り部の会	鶴　見　常　夫
4	東日本大震災・原子力災害伝承館	横　山　和佳奈
5	ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）	村　山　祐　子
6	福島大学地域未来デザインセンター	山 田　修 司

【事務局】

NO.	所　　属	氏　　名
1	福島県生涯学習課長	中　村　　敬
2	福島県生涯学習課主幹兼副課長	斎　藤　才　子
3	福島県生涯学習課　社会教育主事	大　塚　　渉
4	福島県生涯学習課　主事	舟　木　真実恵

【報告１】令和６年度事業報告について

１　ネットワーク・レベルアップ

（１）東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
・第１回令和６年６月３日（月）双葉町産業交流センター　大会議室
・第２回令和７年２月８日（土）富岡町文化交流センター　大会議室

（２）ふくしま震災伝承者交流会（令和６年１１月１９日）
・講話「知らない震災を語り継ぐ神戸の若者たち」
講師　あすパ・ユース震災語り部隊　代表　池田　拓也　氏
・高校生語り部発表３名（福島県立ふたば未来学園高等学校）
・交流会　テーマ「思いをつなぐ震災伝承とは」
参加者８０人

（３）令和６年度３．１１被災地視察研修（令和６年１０月１０～１１日）
石巻市震災遺構門脇小学校、石巻南浜津波復興祈念公園、
石巻市震災遺構大川小学校、南三陸町内被災地、南三陸町語り部との交流会
参加者３２人

２　人材育成

（１）伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議
・第１回　令和６年５月１７日（金）富岡町文化交流センター　小ホール
・第２回　令和６年１０月１７日（木）※早急な議案が無かったため中止
・第３回　令和７年１月１６日（木）双葉町産業交流センター　大会議室

（２）伝承者育成講座（全４回）
１４人を育成

（３）伝承者育成英語講座（全４回）
３人を育成

３　語り部派遣

（１）語り部県内派遣事業
県内教育機関向けに案内を送付し、派遣の斡旋を行った。

（２）語り部県外派遣事業
派遣者数４４人
※令和６年度語り部県外派遣の実績について（別紙資料）

【報告２】活動調査アンケートの結果について

①ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等活動調査アンケートの概要

【目　　的】登録団体等の基本情報や活動状況を確認し、今後の伝承活動推進に活かすため。

【調査対象】ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体（３０団体）

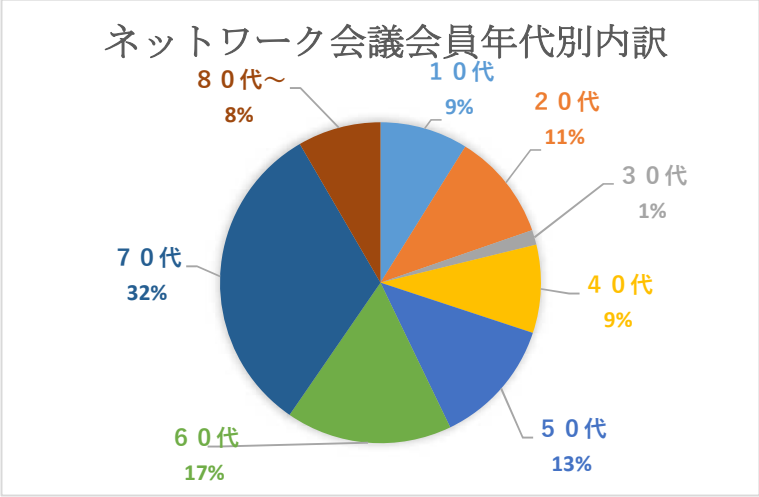
【実施期間】令和７年３月６日（木）～令和７年３月１８日（火）

【回収方法】メール・ＦＡＸ

②集計結果

ア　会員について

年代	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代～	計
人数（人）	18	22	3	18	26	34	65	17	203



イ　活動実績についてお答えください。

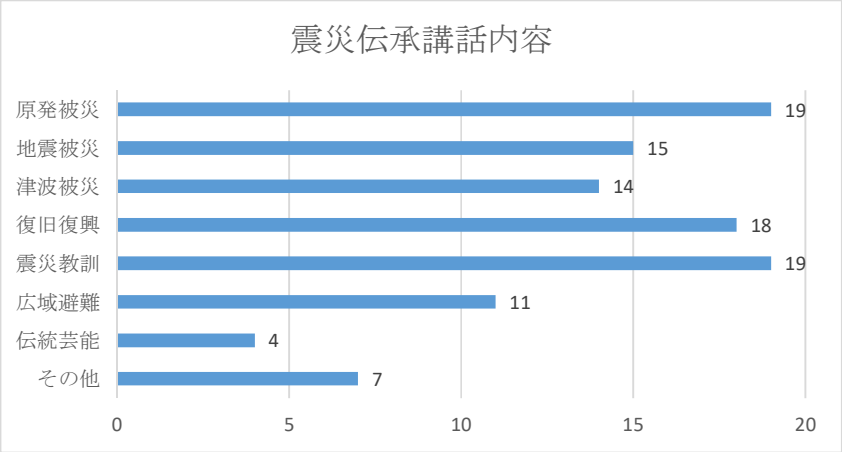
①令和６年度の活動回数

活動	語り部	交流会	研修会	総会	計
参加人数（人）	2, 994	39	120	13	3, 166

②令和６年度震災講話の参加者延べ人数　〔73, 749人〕

③震災伝承講話内容

講話内容	原発被災	地震被災	津波被災	復旧復興	震災教訓	広域避難	伝統芸能	その他	計
団体数	19	15	14	18	19	11	4	7	107



※その他
- 地域の昔話
- 防災訓練
- 震災関連死
- 市内観光案内

ウ　活動拠点における自治体（行政機関、学校等）との取組で、持続可能な震災伝承となる効果的な実践や関わりがございましたら、お書きください。

・いわき市立中央台南中学校の生徒による中学生語り部を２回実施。（令和７年度は３回実施予定）
・行政との展示や語り部活動についての意見交換。
・大熊町「学び舎ゆめの森」で「おほしさまになったおまわりさん」を上演。行政や学校関係者、子どもたちと震災への思いが共有することができた。
・原発事故における放射線の正しい知識の共有
・菊人形会場、もみじまつり、子供に送る音楽会等での活動
・相馬市の防災備蓄倉庫について、復興視察ツアー時に見学させていただいたり、研修室をお借りしたりするなど、震災伝承活動に協力いただいている。
・町内アーカイブミュージアムでの「語り人アワー」の実施。
・町教育委員会との取組で震災遺構の請戸小学校で「請戸小避難物語」を２回上演。
・311関連イベントでの語り部、町内視察者への対応等
・お茶会（地域交流会）での車座意見交換会
・おおくまふるさと塾（町内古跡巡り等）
・熊川稚児鹿舞保存会の伝統芸能保存活動
・地域防災行事での震災講話、自治会での意見交換会
・地域での上演、学校の道徳授業での震災講話
・子ども会での防災講話
・大学生への震災講話と意見交換会

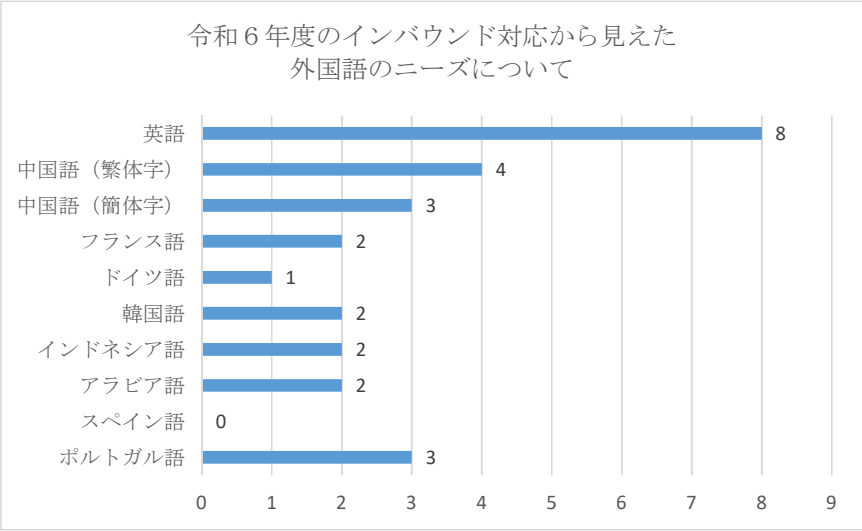
エ　国・自治体に求める支援がありましたら、お書きください。

・有償派遣の方策の検討
・震災展示会場運営の補助、地元ボランティアの語り部支援
・伝承活動に対する継続的な支援（財政面での支援を含む）
・震災の伝承（語り部）について、行政や学校側からの関わりが少ない。
・語り部（講話・口演）を授業の一環として取り入れてほしい。
・学校教育、地域の子どもたちへの派遣への後押し。
・被災民が交流できる機会の支援
・資金援助
・視察時に使う道具（拡声器等）、震災当時の資料の提供
・持続可能な伝承活動のために、資金面、人材確保面に、国、自治体の実質的な支援体制の継続を希望。
・自治体、特に市町村における教育委員会が、学校教育の中に「ふるさと福島の歴史を学ぶ」一環として、震災伝承活動を取り入れること。また、地域の語り部の有効な人材活用。
・県内学校において、震災伝承活動するための支援
・村の人材育成
・聾等の障がいを持っている方や外国人のお客様など、講話の際に通訳が必要な方が来館された際にサポートを依頼できる機関があるとよい。
・補助金（活動支援）
・避難した人の帰還を促進する取組
・活動機会の提供
・各自治体も一緒に震災伝承活動に取り組んでもらいたい。
・ボランティアガイドにおいては高齢化、登録者の減少が続いていることから、それらの課題の共有、改善に向けた取り組みがあれば共有いただきたい。また、スキルアップの研修会等があれば紹介いただきたい。
・公共交通機関のみを利用して参加する人を考慮したネットワーク会議主催行事の日程調整

オ　令和６年度のインバウンド対応（外国人向け講話）についてお答えください。

①対応した外国人の国籍

アメリカ、中国、台湾、香港、韓国、フランス、イギリス、
オーストラリア、エジプト、インドネシア、ブラジル、ポルトガル、
ドイツ、イスラエル、インド、ウクライナ、ネパール



【報告３】令和７年度伝承者育成講座について

令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座　開催要項
（次世代へつなぐ震災伝承事業）

１　事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から１４年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性は一層増しています。その一方で、後継者の育成が課題となっていることから、複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施します。

２　主　催　　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

３　日程・内容

〇開講式・第１回伝承者育成講座

［日時］令和７年７月１９日（土）１０：２０～１６：３０（受付１０：１０～）

［場所］双葉町産業交流センター　大会議室　等

［内容］開講式

１時間目「語り部の役割」

２時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

３時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

〇第２回伝承者育成講座（１日目）　※宿泊については希望される方のみ。

［日時］令和７年９月２７日（土）９：３０～１６：３０（受付９：１５～）

［場所］集合場所：双葉町産業交流センター　駐車場

・フィールドワーク訪問地　大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動となります。

・意見交換会　双葉町産業交流センター　大会議室（予定）

［内容］フィールドワーク・意見交換会

〇第２回伝承者育成講座（２日目）

［日時］令和７年９月２８日（日）９：００～１４：４５（受付８：５０～）

［場所］双葉町産業交流センター　大会議室等（予定）

［内容］１時間目「伝わりやすい話し方講座」

２時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

〇第３回伝承者育成講座（本講座の受講生で希望者のみ）

［日時］令和７年１１月２９日（土）１０：３０～１４：３０（受付１０：２０～）

［場所］双葉町産業交流センター　大会議室等（予定）

［内容］「プレゼンテーションスキルアップ」

○第４回伝承者育成講座・修了式

［日時］令和８年２月７日（土）１０：００～１４：００（受付９：４５～）

［場所］富岡町文化交流センター　学びの森　大会議室・研修室等（予定）

［内容］成果発表・修了式

同日の午後に開催する第２回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行います。

○その他

（１）全講座を受講した方に修了証書が授与されます。また、修了された方は、県外語り部派遣者に登録されます。

（２）第２回伝承者育成講座は２日間となります。**宿泊については、希望される方のみとなります。なお、宿泊費については受講者負担となりますことを予めご承知おきください。**宿泊先については、双葉町内のホテル（シングル 7,300 円）を予定しておりますが、詳細につきましては、受講生決定通知の際にお知らせいたします。

（３）全日程参加を原則としますが、個別の事情がある方は事前に事務局にご相談ください。

４　受講対象　・一般の方（高校生以上）で、震災伝承活動に関心のある方

・現在（過去も含む）、震災伝承者活動をされている方

※御不明な点があれば、事務局までお問い合わせください。

５　募集人数　１５名程度

６　受講料　無料（交通費・宿泊費は各自で御負担いただきます）

７　申込方法

（１）締切日　令和７年６月２５日（水）

（２）方　法　受講希望者は、「（様式）令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 受講申込書」に記入し、申込先へメールで送付してください。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp
（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課　ＴＥＬ：024-521-7404）

８　受講者の選考

受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査より選考します。

決定後、７月４日（金）までに申込者全員に選考結果をお知らせします。

（様式）　令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 受講申込書

（ふりがな） 氏　名	氏		名		生年月日 昭和・平成 年　月　日
住　所	〒				
電話番号	【自宅】		【携帯】		
メールアドレス					
職　業					
所　属 （語り部団体）					
語り部経験 ※経験有りの方のみ記入	語り部経験年数 年		直近の年間講演回数 回／年		
受講理由	【動機】				
	【これまでの主なボランティア活動】				
伝えたいこと （教訓など）	（例：普段からの心構え、災害時の行動等）				

【報告３】

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県各課事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

全体コーディネート：福島大学准教授　前川　直哉氏

回	項　目	目　的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月19日 （土） 双葉町産業交流センター 大会議室	開講式					
	語り部の役割 （90分） 10:30～ 12:00	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動をふり返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有ワークショップ （75分） 13:00～ 14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表　青木淑子氏、福島大学准教授　前川　直哉氏	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のあの日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ （120分） 14:30～ 16:30	多くの人に知ってほしい福島のむかし、いま、みらいについて、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える（各グループ）班編制４人を上限 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換（各グループ） ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 (予定)	・福島の震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のあの日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ　P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18
※第２回研修までに語り部原稿・メモの見直し						

回	項　目	目　的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 （土） (1日目) 双葉町産業交流センター出発 ９：３０	語り部案内によるフィールドワーク① （120分） ９:50～ 11:50 ※途中、昼食	福島県内の語り部の活動内容を実践の場で体験し、その活動現場を訪れる。また、自分自身の経験を語るために必要なスキルや伝えるべき震災の実相について、参加者の間で学び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の現状を把握するため、震災現場を訪れます。語り部の実体験に基づく説明を聞きながら、語り部活動の重要性について考えます。 ＜内容案＞ ①震災現場訪問 ②語り部のよる地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールドワーク① 中間貯蔵施設 大熊未来塾 代表：木村紀夫氏 ・バス移動中（大熊～いわき）ネットワーク会議会員による案内 ・フィールドワーク② いわき市薄磯地区 いわき語り部の会代表：大谷慶一氏 ・バス移動中（いわき～双葉）ネットワーク会議会員による語り	・自身が発信すべきことを具現化することができる。 ・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ・フィールドワーク資料(現場案内で普段使用しているもの) ※第3回研修までに自身の語り部原稿素案(概要)を見直し、原稿案として作成
	語り部案内によるフィールドワーク②（60分） 13:15～ 14:15					
東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室	意見交換会 （45分） 15:45～ 16:30		フィールドワークを終え、実際の現場を体験してみての感想や、語り部の話す内容との違いや疑問等について、意見交換を行います。参加した受講生の気づきや、自身の思いを具現化するために必要なことについて考えます。 ＜内容案＞ ①語り部との意見交換	意見交換会：福島大学准教授　前川直哉氏	・自身の経験を価値に変えるための気づきを得る	
宿泊準備						

回	項　目	目　的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第２回 9月28日 （日） (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室	伝わりやすい話し方講座 （90分） 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 助教 久保田彩乃氏	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認)
	プレゼンテーションスキルアップ （180分） 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 助教 久保田彩乃氏	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

※第３・４回研修までに発表の練習

回	項　目	目　的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第３回 11月29日 （土）双葉町産業交流センター （予定） ※希望者のみ参加	プレゼンテーションスキルアップ２（180分） １０：３０～ １４：３０ ※途中60分昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授　前川　直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第４回研修までに発表の練習

回	項　目	目　的	研修概要	講師案	備考
第４回 令和８年 2月７日 （土）双葉町産業交流センター （予定）	成果発表 （120分） 10：00～ 12：00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	４～５グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。（1グループ３～４人＋講師）※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部（東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長・副会長・会員）	発表の様子は記録動画に保存し、アーカイブ化のための材料とする。

修了式（2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内）

【報告４】令和７年度伝承者育成中国語講座について

令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成中国語講座　開催要項
（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1	事業の目的	中国語圏からの来県者の増加に伴い、震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、福島県の未曾有の複合災害の記憶と教訓を伝えることを目的として、中国語で講話ができる語り部を育成するため。
2	主催	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
3	日程・内容	令和７年度伝承者育成講座要項と同様
4	受講対象	震災語り部を希望する県内在住の中国語圏出身の方（講座の日本語が理解できることが条件）及び中国語が話せる方
5	募集人数	２～３名
6	受講料	無料（交通費・宿泊費は各自で御負担いただきます）
7	申込方法	（１）締切日　令和７年６月２５日（水） （２）方　法　受講希望者は、「（様式）令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成中国語講座受講申込書」に記入し、申込先へメールで送付してください。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp
（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課　ＴＥＬ　：024-521-7404）

8	受講者の選考	受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査より選考します。決定後、７月４日（金）までに申込者全員に選考結果をお知らせします。

（様式）令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成中国語講座　受講申込書

（ふりがな） 氏　名	氏		名		生年月日 西暦　　年 月　　日
住　所	〒				
電話番号	【自宅】　　【携帯】				
メールアドレス					
職　　業					
語り部経験 ※経験有りの方のみ記入	語り部経験年数 年		直近の年間講演回数 回／年		
受講理由	【動機】				
	【これまでの主なボランティア活動】				
伝えたいこと （教訓など）	（例：普段からの心構え、災害時の行動等）				

【報告５】令和７年度語り部県外派遣の申込状況について

令和７年４月 28 日現在

No.	開催日	主催者 市区町村	主催者	会場	予定聴講者(名)
1	令和７年５月24 日(土)	茨城県水戸市	ハクビ京都きもの学院茨城師範会	水戸京成ホテル	60
2	令和７年６月21 日(土)	東京都清瀬市	NPO 法人きよせラボ	清瀬市立清瀬第三小学校	150
3	令和７年６月21 日(土)	東京都清瀬市	NPO 法人きよせラボ	清瀬市立清瀬第三小学校	50
4	令和７年６月22 日(日)	熊本県水俣市	原発避難計画を考える水俣の会	水俣市公民館	30
5	令和７年７月８日(火)	長崎県佐世保市	清水地区自治協議会 清水地区コニュニティセンター 北地区自治協議会	清水地区コミュニティセンター	80
6	令和７年７月８日(火)	長崎県佐世保市	山澄地区自治協議会 山澄地区コニュニティセンター	山澄地区コミュニティセンター	40
7	令和７年８月22 日(金)	岡山県備前市	備前市役所　文化スポーツ部　生涯学習課	備前市役所または備前市民センター	400
8	令和７年９月11 日(木)	栃木県佐野市	佐野市役所　人権・男女共同参画課　人権推進係	佐野市役所	25
9	令和７年10 月５日(日)	大阪府大阪市西区	シルバーユニオン災害ボランティア隊	大阪市西区民センター	30
10	令和７年11 月 26 日(水)	栃木県河内郡上三川町	上三川町　生涯学習課	上三川町 ORIGAMI プラザ日産ホール	60
11	令和７年12 月３日(水)	長崎県長崎市	長崎県長崎市立福田中学校	長崎県長崎市立福田中学校	200
12	令和８年２月５日(木)	鹿児島県大島郡瀬戸内町（奄美大島）	鹿児島県立古仁屋高等学校	鹿児島県立古仁屋高等学校	40
	予定聴講者数				1,165

【協議１】令和７年度 ふくしま震災伝承者交流会実施計画（案）について

１　目　的

東日本大震災・原子力災害の発生から１４年が経過し、全国で風化が進む中、風化防止・風評払拭のために活動している震災等語り部は、高齢化や後継者不足など、現在さまざまな課題を抱えている。こうした課題に対し、語り部や語り部に関心のある人、各市町村行政等が、それぞれの立場で震災伝承についての思いを共有することで、今後の語り部活動や語り部育成の取組に生かすことを目的とする。

２　テーマ　「一人ひとりが震災伝承者」（仮）

設定理由：震災経験者の中で「私の経験は語る価値があるのか」と、自身が震災について語ることに遠慮や疑問を感じている人が多いことから。

３　開催日時　　令和７年１１月　　日（　）　13：00～16：00

４　場　　所　　双葉町産業交流センター　大会議室（予定）

５　内　　容

・講話「　　」（未定）　４０分

・　「　　」（未定）５０分

・交流会　　テーマ「あなたが思う震災伝承とは」（仮）　７０分

小グループでの交流。各グループの進行以外のメンバーを３０分間で入れ替えし、計２回の交流を行うようにする。

※ 閉会後 16：00～フリー交流

＜令和４年度＞

・講話「長崎原爆　被爆者　池田道明さんの体験を語り継ぐ」

講師　交流証言者　山野　湧水　氏

・パネルディスカッション　テーマ「伝承活動における地域連携について」

・交流会　テーマ「伝承活動における地域連携」

＜令和５年度＞

・講話「語りつなぐという事、それは。。。」

講師　命を守る大切さを語りつなぐ　代表　三浦　浩　氏

・パネルディスカッション　テーマ「わたしたちの震災伝承への思い」

・交流会　テーマ「とぎれない震災伝承にするために」

＜令和６年度＞

・講話「知らない震災を語り継ぐ神戸の若者たち」

講師　あすパ・ユース震災語り部隊　代表　池田　拓也　氏

・高校生語り部発表３名（福島県立ふたば未来学園高等学校）

・交流会　テーマ「思いをつなぐ震災伝承とは」

６　参加対象

県内各語り部団体の会員、過去に語り部育成講座に参加した方、震災伝承に興味のある方、市町村等関係者、福島県観光物産交流協会、震災伝承施設関係者、福島県教育庁　等

【協議２】令和７年度　３．１１被災地視察研修実施計画（案）について

１　趣　旨　　福島県以外の被災地を視察し現地の語り部と交流することで、震災伝承の取組の比較や自分たちの活動内容の振り返り、震災伝承に対する思いや願いを共有する機会とする。

２　日　時　　令和７年１０月９日（木）～１０月１０日（金）１泊２日（予定）

３　視察地　　岩手・宮城方面（行程については未定）

〇令和６年度の内容

・令和６年１０月１０日（木）
石巻市震災遺構門脇小学校、石巻南浜津波復興祈念公園、石巻市震災遺構大川小学校、南三陸ホテル観洋女将による講話　等

・令和６年１０月１１日（金）
南三陸町内（高野会館前、南三陸町旧防災対策庁舎等）、南三陸町語り部との交流会

４　対　象　　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員

５　参加費　　１人当たり負担額　１０，０００円程度
宿泊予定地　南三陸ホテル観洋
〒９８６－０７６６　宮城県本吉郡南三陸町志津川字黒崎９９－１７

６　申込み

（１）様式（別紙）　※後日、通知します。

（２）回答方法　電子メール

①電子メール　f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

②報告期限　令和７年７月４日（金）

７　その他

（１）１団体につき、３名までの参加とします。

（２）自己負担は県からの一部補助により、１０，０００円程度を想定しておりますが、参加人数によっては、増減する場合があります。

（３）宿泊する御部屋は、３～４名１室のご利用となります。

（４）申込み後のキャンセルにつきましては、令和７年９月３０日（火）まで、事務局に連絡をお願いします（令和７年９月３０日（火）以降の連絡は、キャンセル料が発生いたします）。

【協議３】令和７年度伝承者育成英語講座の受講者について

令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成英語講座の経過
（次世代へつなぐ震災伝承事業）

１　事業化の経緯

令和５年度に東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の意見交換において、「語り部を聞く方の中に外国人の方が増えていること。」、「逐次通訳となる場合は、言いたいことが半分しか言えない。」、「質疑応答には対応できないまでも、「語り」部分は自分で伝えたい。」といった意見があったため、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の主催事業として事業化した。

２　受講者選定の経過

・令和７年２月８日の東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議で承認された計画に基づき、開催要項を作成し、３月に参加者を募集。
・東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の４会員が推薦を受ける。
・5/15（本日）、第１回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議により推薦者４名を受講者とすることについて、了承を受けて正式に決定する。

３　受講者　（五十音順）

氏名	推薦団体
小泉　良空（こいずみ　みく） （語り部経験年数３年）	東日本大震災・原子力災害伝承館
佐藤　勇樹（さとう　ゆうき） （語り部経験年数５年）	東日本大震災・原子力災害伝承館
三舩　暁（みふね　さとる） （語り部経験年数１年）	個人（ネットワーク会議会員）
横山　和佳奈（よこやまわかな） （語り部経験年数４年）	東日本大震災・原子力災害伝承館

４　今　後

・令和７年７月１９日（土）の開催を含め、全５回受講
・令和８年２月７日（土）のネットワーク会議冒頭に修了式

令和７年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成英語講座　開催要項
（次世代へつなぐ震災伝承事業）

１　事業の目的　　東日本大震災及び原子力災害の発生から１４年が経過し、年々震災学習等に関するインバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施します。

２　主　　催　　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

３　日程・内容　　○第１回講座
【日時】令和７年７月１９日（土）（予定）
受講生①の講座：１０：３０～１１：３０
受講生②の講座：１２：３０～１３：３０
受講生③の講座：１４：００～１５：００
※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行います。
【場所】双葉町産業交流センター　中会議室（予定）
【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」

○第２回講座
【日時】令和７年９月２７日（土）
受講生②の講座：１０：００～１１：００
受講生③の講座：１３：００～１４：００
受講生①の講座：１５：３０～１６：３０
【場所】東日本大震災・原子力災害伝承館　研修室（予定）
【内容】「翻訳原稿の音読講座②」

○第３回講座
【日時】令和７年１０月２５日（土）
受講生③の講座：１０：００～１１：００
受講生①の講座：１３：００～１４：００
受講生②の講座：１５：３０～１６：３０
【場所】双葉町産業交流センター　中会議室（予定）
【内容】「翻訳原稿の音読講座③」

○第４回講座
【日時】令和７年１１月２９日（土）
受講生①の講座：１０：００～１１：００
受講生②の講座：１３：００～１４：００
受講生③の講座：１５：３０～１６：３０
【場所】双葉町産業交流センター　中会議室（予定）
【内容】「翻訳原稿の音読講座④」

○第５回講座・修了式
【日時】令和８年２月７日（土）１０：００～１２：００
【場所】双葉町産業交流センター　中会議室（予定）
【内容】成果発表
※修了式は、同日の午後に開催する第２回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行います。

4　受講対象　　○東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴３年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。
○「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。

5　募集人数　　３名

6　受講者選考方法　　語り部団体から、「（様式）令和７年度東日本大震災・原子力災害伝承者英語講座受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から事務局で選出し被推薦者に打診します。被推薦者から承諾を得た後、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム）の承認を受けて、受講生を決定します。選定結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールでお知らせします。

7　受　講　料　　無　料
（但し、講座会場までの交通費・昼食代は、受講者各自で負担いただきます）

8　全体スケジュールイメージ

事前準備（４月～６月）	講座受講（７月～２月）	修了後（R８年度～）
①自身の語りを日本語の原稿に作成（３０分程度の原稿）し、講師に提出する。 ②講師から英訳された原稿を事前に受け取る。	○全５回講座、講師と受講生のマンツーマン式。（「３．日程・内容のとおり」） ※次回の講座まで、各自、自主練習（翻訳原稿の音読練習）を行う。	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9　そ　の　他
（１）本開催要項は、令和７年４月１日（火）時点の想定であり、今後、講師の意見・参加者の状況に応じて変更することがあります。
（２）講師・受講生の都合に応じてオンライン講座及び受講生の進度に応じて補習（対面・オンライン）についても検討いたします。
（３）講師の他に英語、プレゼンテーションに詳しいコーディネーターによるアドバイスも随時、実施予定です。
（４）スピーチの内容を留学生等の外国人に聴講してもらう機会を設けるよう調整します。
（５）本講座は、ご自身の語りの内容を英語でスピーチできることを意図しており、英会話の習得が目的ではないことをご承知おきください（講話における質疑応答は、引き続き、通訳を介することを前提としています）。
（６）問い合わせ先
東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課　TEL：024-521-7404）

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

【協議４】令和７年度語り部県内派遣事業（案）について

令和７年度東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業
（県内教育機関向け派遣）

１　事業の目的
　震災・原発災の記憶・経験がない世代への震災伝承を図ることを目的に、教育庁と連携し、県内の小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校で行われる震災学習でのふくしま語り部ネットワーク会議会員（語り部）の活用を勧める。

２　主催
　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

３　事業内容
　派遣案内チラシを義務教育課、高校教育課等を通して、県内の小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校へ配付する。

４　その他
　各学校からネットワーク会議登録の各団体へ申込みにより、派遣実施（謝金・旅費は各団体の規定による）。

令和７年度　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業（県内教育機関向け派遣）

ふくしま震災語り部から
防災・震災について
学んでみませんか。

東日本大震災・原子力災害の経験や教訓を伝える
「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を派遣します

東日本大震災及び原子力災害の発生から１４年が経過し、全国で風化が進行する中、震災等の記憶と教訓を人々の心に刻むものとして、語り部の生の声による伝承活動が重要視されています。

本事業では、「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を、各小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校に派遣し、世界に類を見ない複合災害の経験や教訓、そこから立ち上がる福島の歩みや現状について思いを伝えます。

ぜひ児童生徒の防災教育における震災学習や教職員の研修に、ふくしま震災語り部をご活用ください。

派遣地及び派遣する語り部

（１）派遣地
　　県内の各小・中学校・義務教育学校、各県立・私立学校

（２）派遣する語り部
　　東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等の語り部

申し込みから開催までの流れ

（１）申し込みの受付
　　申込期限：希望日の約１カ月前まで
　　※語り部のスケジュールの都合により、日程の調整をしていただく場合がございます。
　　申込期限を過ぎる場合は各団体へ直接ご相談ください。

（２）申込者（各学校担当者）と派遣語り部との電話・メール等での打ち合わせ
　　開催に向けての準備等を進めます。

（３）会場への派遣、開催
　　会場設営、必要機器等の準備を行ってください。

申し込みに際しての注意事項

（１）**語り部の謝金・旅費については、各団体の規定に基づいた金額を、申込者（各学校）でご負担**となりますことを予めご承知おきください。

（２）語り部による震災講話は、福島の経験と教訓の学びと防災・減災意識の向上を目的とします。

（３）必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、スクリーン、机、マイク及びマイクスタンド等）は各学校に準備していただきます。

申し込み・問い合わせ先

（１）申込み・お問い合わせは、福島県生涯学習課ホームページ「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議」の「ネットワーク会議会員一覧」に記載してある**各団体に、直接連絡をお願いいたします。**

（２）本事業において、ご不明な点がございましたら、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課）までお問い合わせください。

◆東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課内）
TEL０２４－５２１－７４０４
ホームページ　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/
電子メール　　f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体（令和７年３月）

方部	市町村	名　称	代表者	連絡先	講話内容
県北	福島市	F．tellers（エフ・テラーズ）	前川　直哉	r873@ipc.fukushima-u.ac.jp	地震・原発事故被災、震災教訓、子供たちの被災
		平野　勝長（ひらの　かつなが）		katsunaga.h@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、復旧復興
		山百合の会	松田早百合	rantoumae@gmail.com	原発事故被災
	二本松市	子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団	萩原　和也 佐藤　敬子	090-5187-9019 （担当：佐藤）	地震・津波、震災教訓、広域避難、広域避難
県中	郡山市	遠藤　絹子（えんどう　きぬこ）		kinchan.bubu789@gmail.com	原発事故被災
		ふくしまリアリ	山口　祐次	024-953-4018 info@f-riari.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	須賀川市	藤沼湖自然公園　復興プロジェクト委員会	深谷　武雄	0248-67-3121 （長沼商工会） naganuma@train.ocn.ne.jp	地震被災、震災教訓
会津	会津若松市	會空（あいくう）	庄子ヤウ子	090-9704-9622 yoko.shoji0718@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	会津坂下町	防災語り部の会	鶴見美佐子 鶴見　常夫	090-1374-3687 tc8ny3@bma.biglobe.ne.jp	地震・津波・原発事故被災、震災教訓
相双	相馬市	相馬市観光協会	草野　清貴	0244-35-3300（担当：渋谷） kanko@bb.soma.or.jp	地震・津波被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
		永岡　富紀子（ながおか　ふきこ）		090-1931-0254 soyoeru55@gmail.com	原発事故被災、震災教訓
	南相馬市	南相馬市観光ボランティアガイド		現在、調整中	観光案内（復興状況説明）
		原発震災を語り継ぐ会	髙村　美春	wwinaiinaibar@yahoo.co.jp	原発事故被災
	飯舘村	ニコニコ菅野農園	菅野　クニ	kuni@nico2farm.jp	原発事故被災、広域避難、復旧復興、伝統芸能
	浪江町	浪江まち物語つたえ隊	八島　妃彩	090-9749-6189 840hisai@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝説・民話
		大堀相馬焼協同組合	半谷　貞辰		語り部派遣は行っておりません。
	双葉町	國分　信一（こくぶん　しんいち）		090-4045-4742 shikokubun@ozzio.jp	放射線、原発事故内容 地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
		東日本大震災・原子力災害伝承館	高村　　昇	0240-23-4402（担当：横山）	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝統芸能 ※語り部派遣は行っておりません。
	大熊町	大熊未来塾	木村　紀夫	080-6006-4811 okuma.future@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝統芸能、社会問題
		おおくま町物語伝承の会	橘　　秀人	090-5312-2576 hidetotachibana79@gmail.com	原発事故被災、伝統芸能、震災教訓、復旧復興
		HITOkumalab	佐藤　亜紀	akisatookuma@gmail.com	原発事故被災、広域避難、復旧復興、伝統芸能
	富岡町	富岡町 3･11 を語る会	青木　淑子	0240-23-5431 kataribe_office@tomioka311.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
		双葉郡未来会議	平山　　勉	info@nomadic.to	語り部派遣は行っておりません。
	楢葉町	Ｊヴィレッジ	鶴本　久也	0240-26-0111 （担当：猪狩）	地震・津波・原発事故被災、復旧復興
		ならはみらい	渡邉　　清	0240-23-6771（担当：平山）	原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	広野町	星降る古里ひろの	鈴木　恵子	080-1824-3382 k.s.07280822@gmail.com	原発事故被災、震災関連死
いわき市		いわき語り部の会 （いわき震災伝承みらい館）	大谷　慶一	0246-38-4894	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難復旧復興
		いわき市観光物産センター （いわき･ら･らミユウ）	本田　和弘	0246-92-3701 （担当：仙坂）	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、復旧復興
		ふくしま海洋科学館 （アクアマリンふくしま）	古川　　健	0246-73-2539 （担当：大石）	地震・津波被災、復旧復興
		三船　　暁（みふね　さとる）		mifune@ur-net.go.jp	震災・原発事故被災地の復興

計　３０団体等